

## 平成23年度事業報告

### 1 並行在来線対策協議会の開催

(1) 第1回(平成23年5月30日(月)/富山県民会館304号室)

- ◇協議事項
- ①並行在来線(北陸本線県内区間)の経営の基本方針のとりまとめ
  - ②平成22年度事業報告・収支決算について
  - ③平成23年度事業計画・収支予算について

(2) 第2回(平成24年1月23日(月)/富山県民会館304号室)

- ◇協議事項
- ①並行在来線三セク会社の出資について
  - ②並行在来線経営計画概要(第1次)のとりまとめ

### 2 並行在来線対策協議会幹事会等の開催

(1) 第1回(平成23年5月24日(火)/富山県民会館302号室)

- ◇議題
- ①富山県並行在来線対策協議会提出議題について
  - ②並行在来線に関する今後のスケジュールについて

(2) 第2回(平成23年11月14日(月)/富山県民会館701号室)

- ◇議題
- ①並行在来線経営計画概要(第1次)素案について

### 3 経営専門委員会での検討状況

○ 平成23年8月11日(木)(富山県民会館612号室)

- ◇議題
- ①並行在来線(北陸本線県内区間)の経営の基本方針について
  - ②経営計画概要(第1次)検討素案について

○ 平成23年10月7日(金)(都道府県会館403号室)

- ◇議題
- ①経営計画概要(第1次)素案について

○ 平成23年11月14日(月)/富山県民会館701号室

経営専門委員(石井委員)が幹事会に出席し意見交換

- ◇議題
- ①並行在来線経営計画概要(第1次)素案について

#### 4 経営計画概要検討調査の実施

並行在来線の経営計画概要（第1次）の検討にあたり、最近の利用動向や制度改正等を踏まえ、新たな経営収支見通しを試算した。

##### (1) 将来需要予測の見直し

最新の北陸本線の利用動向を踏まえるため、平成22年度のJR北陸本線の利用実績や平成20年の政府の将来推計人口を踏まえ、前回（H18年調査）の需要予測を見直す。

○輸送密度（将来予測）

（単位：人/日）

年度	H22	H27	H37	H47	H57	H27⇒H37	H27⇒H47	H27⇒H57
通勤定期	3,575	3,310	2,973	2,576	2,260	90%	78%	68%
通学定期	2,535	2,576	2,030	1,518	996	79%	59%	39%
定期外	1,916	1,468	937	606	404	64%	41%	28%
計	8,026	7,354	5,940	4,700	3,660	81%	64%	50%

##### (2) 貨物線路使用料の試算

平成23年度に貨物調整金制度が見直しされたことから、新たな貨物調整金制度に基づき貨物線路使用料を試算する。

○貨物調整金制度見直しのポイント

- ・貨客割合は「列車キロ」から「車両キロ」を基礎とするものに変更
- ・資本費に係る算入経費の拡大
- ・固定資産税に係る経費の新規算入 など

○貨物線路使用料の試算（開業翌年度）

H19年調査 12億円/年

→ 今回調査 初期投資256億円の場合 25億円/年  
初期投資288億円の場合 26億円/年

##### (3) 経営収支見通しの試算

開業後（10年間、H35まで）の投資、拡充後の貨物線路使用料、人件費などを精査し、2パターンに分けて収支見通しをシミュレーションする。

（検討ケース）

ケースA 初期投資＝出資金＋三セク会社が借入

開業後（10年間）の投資＝三セク会社が借入

ケースB 初期投資＝出資金＋三セク会社への公的支援

開業後（10年間）の投資＝三セク会社への公的支援

（単位：億円）

検討ケース	初期投資	収支	
		開業翌年度（H27）	開業後10年間累計
ケースA	256	▲27	約▲258
	288	▲30	約▲270
ケースB	256	▲8	約▲45
	288	▲7	約▲42